

編集後記

年末になって恐縮だが、ようやく機関誌「医療経済研究」第2号を世に出すことができた。当初10月刊行予定で準備を進めていたところ、執筆者各位から「夏休みを活用してじっくり論文をまとめたい」というご要望が多数寄せられた。まことに尤もなご提案なので、編集委員と相談し、刊行予定を2カ月先にずらさせていただいた。読者の皆様に対し、以上の事情をご賢察の上、悪しからずご諒承のほどお願い申し上げる次第である。

時間を十二分にいただいたおかげもあって、第1号に引続き、読みごたえのある論文を多数掲載することができた。日本の医療経済研究のリーダー的役割を務めておられる慶応大学の池上教授、東京大学の開原教授ならびに社会保険大学校の広井教授から原稿を頂戴、本誌の巻頭を飾ることができた。三教授の論文のテーマは、いずれも医療界が直面している最重要の経済的課題である。それだけに社会の関心も高い。これらの問題に真正面から取り組み、具体的で説得力のあるご意見を開陳していただいた。寄稿を賜った3名の先生方に心より御礼申し上げたい。

投稿論文は、論文審査委員会の厳選の結果、6本の中から4本の論文を採用した。さすがに現代医療経済研究の中心テーマになっている分野に焦点を絞った力作揃いだった。池田俊也氏他、田村誠氏他、府川哲夫氏、西田在賢氏の労作に敬意を表したい。

なお、コラム欄に、Health Affairsの編集長アイグルハート氏から示唆に富んだ名文の寄稿をうけた。改めてアイグルハート氏のご好意に感謝する次第である。

当研究機構内からの執筆は、巻頭言を尾崎理事長、研究ノートを大知久一氏他、辻泰弘氏にお願いした。

明年も12月に第3号の発行を予定している。関係各位にご協力、ご支援、ご叱責をお願いし、機関誌をより良いものに仕上げていければ幸いである。

(編集委員長 上條俊昭)